

要 望 書

国営八代平野土地改良事業の推進について



【八代平野を潤す遥拝頭首工】

令和7年7月

熊本県八代市

熊本県氷川町

八代市及び氷川町に広がる八代平野は、一級河川の球磨川や二級河川の氷川などから流下した土砂が堆積してできた扇状地や三角洲等の沖積平野と、西暦1600年頃から始まる干拓事業により造成された低平地で形成され、現在では県内有数の農業地帯となっており、水稻とい草を中心とした営農形態から、トマト、メロンなどの施設園芸や露地野菜への転換も進み、生産性の高い多様な農業が展開されています。

本地区では昭和39年から昭和48年にかけて国営土地改良事業により遙拝頭首工や幹線水路及び幹線排水路が整備され、乾田化及び用排水の分離が図られており、特に遙拝頭首工においては農業だけではなく、工業にも用水を供給し、八代地域の製造品出荷額約2,700億円の一翼を担うとともに、宇城・上天草の約7万人に上水を供給し、住民生活を支えています。

しかしながら、本地区の国営土地改良施設は造成後50年以上が経過し、老朽化により、施設の機能が著しく低下している状況にあります。

今後、本地区の農業・工業・生活を持続的に更に発展させるため、用水施設の改修、耐震性能を有していない施設の耐震対策を行い、用水の安定供給や維持管理の省力化を図るとともに、近年の降雨量の増加等に伴う湛水被害を解消するため、排水施設の機能向上対策等を実施する必要があります。

このような中、平成30年度から国営八代平野土地改良事業に着手いただき、深く感謝申し上げます。

現在、九州農政局の現地事務所である八代平野農業水利事業所により、幹線水路をはじめとした施設の改修工事が着々と進んでいます。

つきましては、国営八代平野土地改良事業の更なる推進及び予算確保のため、
格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年7月

八代市長 中村博生

氷川町長 藤本一臣